

① 五十六

闇の繪卷

梶井基次郎

18

最近東京を騒がした有名な強盗が捕まつて語つたところによると、彼は何も見えない闇の中でも、一本の棒さへあれば何里でも走ることか出来るといふ。その棒を身体の前へ突き出し突き出しして、煙でもなんでも盲滅法に走るのだ。そうである。

私はこの記事を新聞で讀んだとき、そのうちに爽快な戦慄を禁じることが出来なかつた。闇！ そのなかではわれわれは何を見ることも出来ない、より深い暗黒が、いつも絶えない波動で刻々と周圍に迫つて来る。こんななかでは思考することさへ出来ない。何かをたずねるかわからないところへ、とうして踏込んでゆくことか出来やう。勿論われわれは摺足で